

## 人は輝く為に、生きていく 197

## チップは、機転を鍛えてくれる。

文・イラスト

中谷彰宏

text &amp; illustration by Akihiro Nakatani

「チップは、受け取ったほうがいいですか」と、サービスマンの方から、相談されました。

人手不足は、全ての業界の課題です。チップは、快く受け取るのが、相手への思いやりです。心苦しくならぬために、チップをもらったら、お返しの方法を考えておくことです。

「日本は、チップ社会ではないから」というのは、誤解です。花街では、花代と祝儀は、別物として、残っています。それは、経済ではなく、文化として、受け継がれています。

昭和世代の父親は、どこに行っても、チップを渡していました。CAさんにもチップを渡して、困らせていました。父親世代がかっこ良かったのは、チッ



プを目立たないように渡せるマナーを身につけていたことでした。

チップが、文化として根付いている欧米では、受け取り方がカッコ良い。渡す方も、渡される方も、まるでマジシャンのように、こなします。近くで見ても、分かりません。

欧米の握手文化は、チップを渡すためにあると思えるくらいです。ホテルマンは、ジャケットのポケットのフラッグを、中に入れていきます。すると、チップを滑り込ませるための工夫です。

チップのやり取りを、目立たせないことは、お客様への礼儀であり、マナーなのです。チップへのお返しの引き出しを増やすことも、サービスマンの力量を問われます。

香港のドアマンは、10年ぶりの訪問でも「おかえりなさい、ミスター中谷」と名前を覚えていきます。

シンガポールのピアノバーのスタッフは、去年歌ったカラオケの曲を覚えていて、言わなくても入れます。

東京ドームのビールの売り子さんは、800円のビールに、千円札を出して「お釣りはいいよ」と言うと、2000円のピーナツをくれます。160人いる中で、次回もその子に注文することに

なります。

チップは、得をするためにあるものではありません。関係を作るためのコミュニケーションです。サービスマンからすると、サービスの引き出しを問われるテストでもあります。

そんな話をした後で、新橋の芸者さんと別れ際に握手をしたら、「わあっ」と、

着物の衿の中に、ご祝儀を入れる仕事をしました。その時は、渡していなかったのに、です。

チップは、機転を鍛えてくれます。そして、出会いを生み出してくれます。



中谷彰宏  
公式 Instagram



## Profile

1959年生まれ。主な著作に『哲学の話』『チャンスをつかめる人のビジネスマナー』『迷った時、「答え」は歴史の中にある。』他、1000冊を超す。【中谷塾】で講演活動を行う。2020年オンライン中谷塾【中谷庵】を開始。

詳しくは、HPで。<https://an-web.com/>